

価格.comリサーチ『最新・カメラ購入意識調査』

**“2台持ち”“3台持ち”など、男女問わずカメラの複数所有が当たり前の時代に
性能向上著しいミラーレス一眼、携帯・スマホ搭載カメラの台頭が、
デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラの利用シーンを浸食**

URL : <http://kakaku.com/research/report/077/>

株式会社カカクコムが運営する購買支援サイト『価格.com（カカクドットコム）：<http://kakaku.com/>』が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第77回『最新・カメラ購入意識調査 2014-覗いてみよう、カメラのトレンド-』の調査結果を一部抜粋の上、ご案内します。

【結果ダイジェスト】

- 所有歴：「所有歴 10 年以上」71.2%。2 年前の調査時（2012 年 3 月）より 5.8 ポイント増加。
女性の所有率が上昇傾向
- 所有台数：約 9 割が複数台所有。“2 台持ち”（23.3%）、“3 台持ち”（22.8%）がそれぞれ 2 割超と、男女問わず複数所有が当たり前の時代に
- 主に使用するカメラ：コンパクトデジタルカメラ（42.9%）がトップも、2 年前と比べると 11.2 ポイント減。デジタル一眼レフ（29.4%、3.2 ポイント増）、携帯・スマホ搭載カメラ（16.9%、5.1 ポイント増）、ミラーレス一眼（7.8%、3.8 ポイント増）が上昇
- 最近購入したカメラ：1 年以内の購入では「デジタル一眼レフカメラ」（49.4%）、直近半年以内の購入では「ミラーレス一眼カメラ」（27.2%）がトップ
- 購入時に重視する点：「解像度の高さ」（8.2%）、「手ブレ防止機能」（7.7%）。価格よりも性能を重視する傾向に

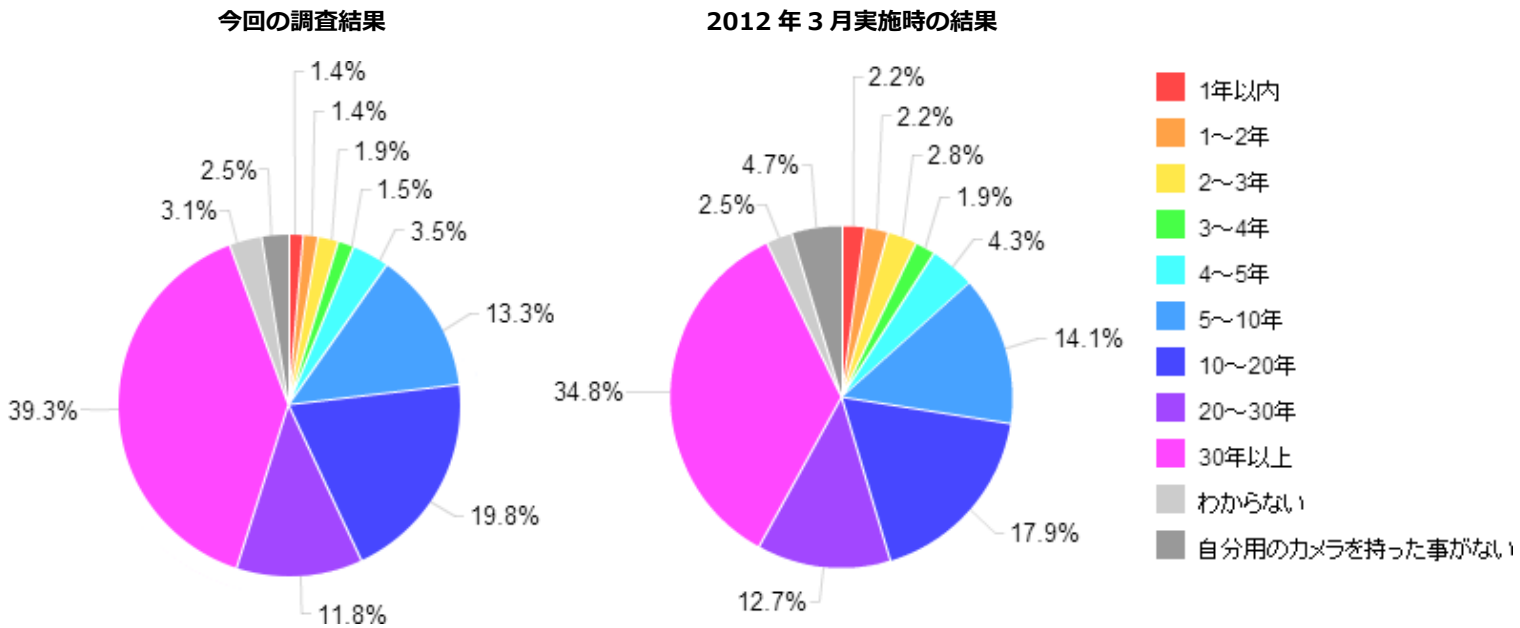
所有歴：「10 年以上」が 71.2%と 2 年前の調査時（2012 年 3 月）より 5.8 ポイント増加。

女性のカメラ所有率が上昇傾向

全体の 4 分の 3 程度が、所有歴 10 年以上となっており、全体的にカメラ所有歴の長い人が多い。ちなみに、今から約 2 年前（2012 年 3 月）に実施した同様のアンケート調査の結果と比べると、所有歴 10 年以上の人は、2 年前の「65.4%」から「71.2%」に、5.8 ポイント上昇している。

なお、男女比で見ると、男性のほうが「30 年以上」という枠では圧倒的に多いが、「30 年以内（20～30 年）」「20 年以内（10～20 年）」「10 年以内（5～10 年）」という枠では、むしろ女性のほうが割合としては多く、5 年以上のカメラ歴を持っている割合で男女を比べると、その差は 8.9 ポイントまで縮まる。女性でもカメラを所有する人が増えており、すでに 5 年、10 年、20 年と使っている人も多いという結果になっている。

【図 1. カメラ所有歴】(N=アンケート回答者全員)

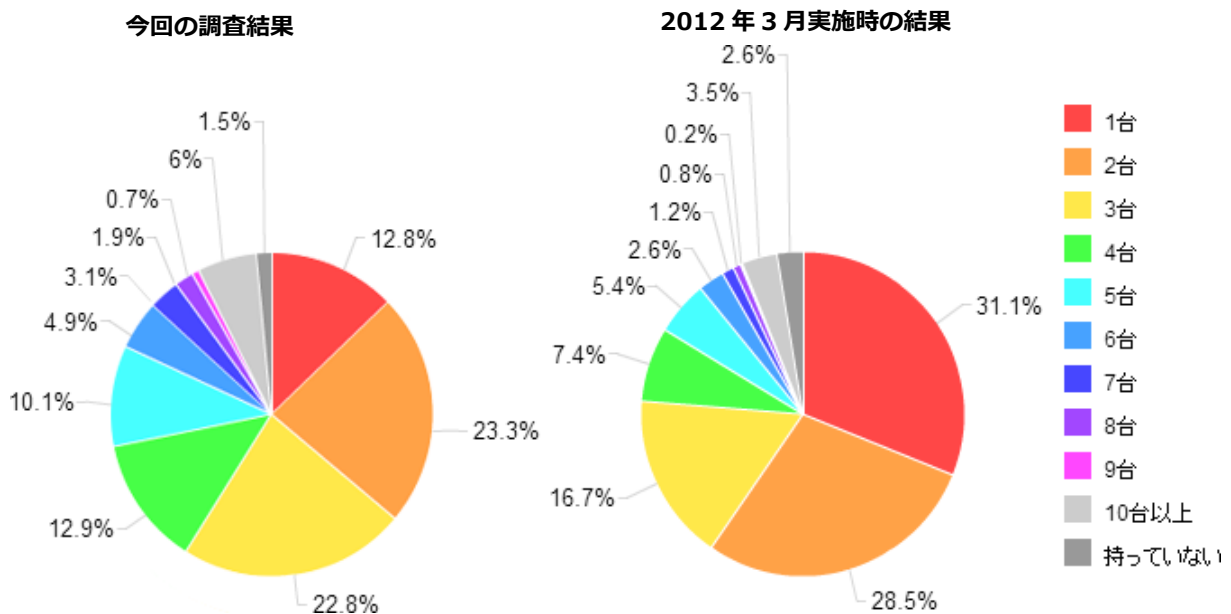


所有台数：約 9 割が複数台所有。“2 台持ち”“3 台持ち”がそれぞれ 2 割超に。

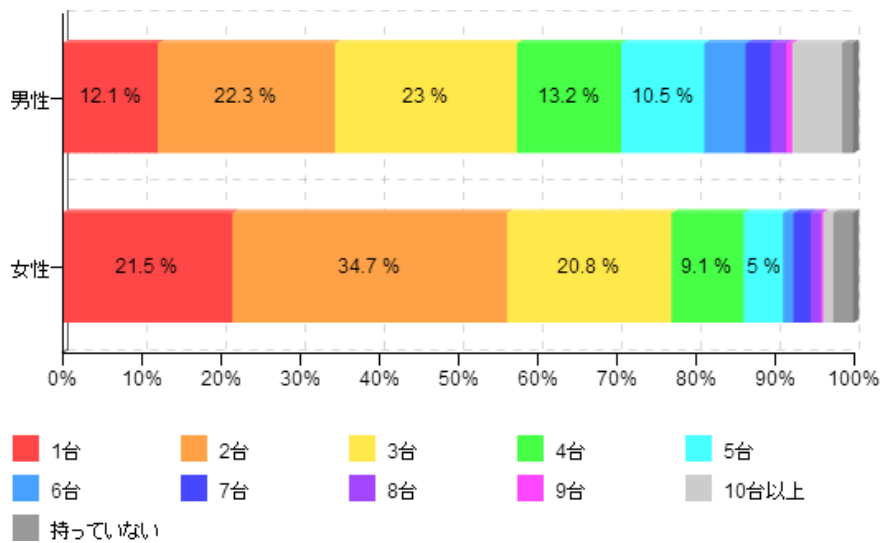
カメラの所有台数については、全体では「2 台」という回答がもっとも多く 23.3%となり、次いで「3 台」が 22.8%、「4 台」12.9%、「1 台」12.8%と続く。逆に「持っていない」と回答した人はわずか 1.5%。今やカメラは 1 人で複数台所有しているのが当たり前の時代になっている。なお、2 年前の調査では、「1 台」という割合がもっとも多く、次いで「2 台」「3 台」という順番だったため、この 2 年間でデジタルカメラが随分普及し、1 人 1 台の時代から、完全に 1 人で複数台の時代へと移り変わっていることがわかる。

この結果を男女別に分けて見ると、やはり、3 台、4 台、5 台とカメラを所有しているのは男性のほうが割合として多いが、逆に 2 台では女性が 34.7%とかなり多く、複数台所有の割合では、男女間で 10.5 ポイントしか差がない。やはり 2 年前の調査と比較した場合、男女間の差は、この点でもかなり縮まっている。もはや、女性でもカメラを複数台持っているのは当たり前の時代になったといえる。

【図 2-1. カメラの所有台数】(N=アンケート回答者全員)



【図 2-2. カメラの所有台数（男女別）】（N=アンケート回答者全員）



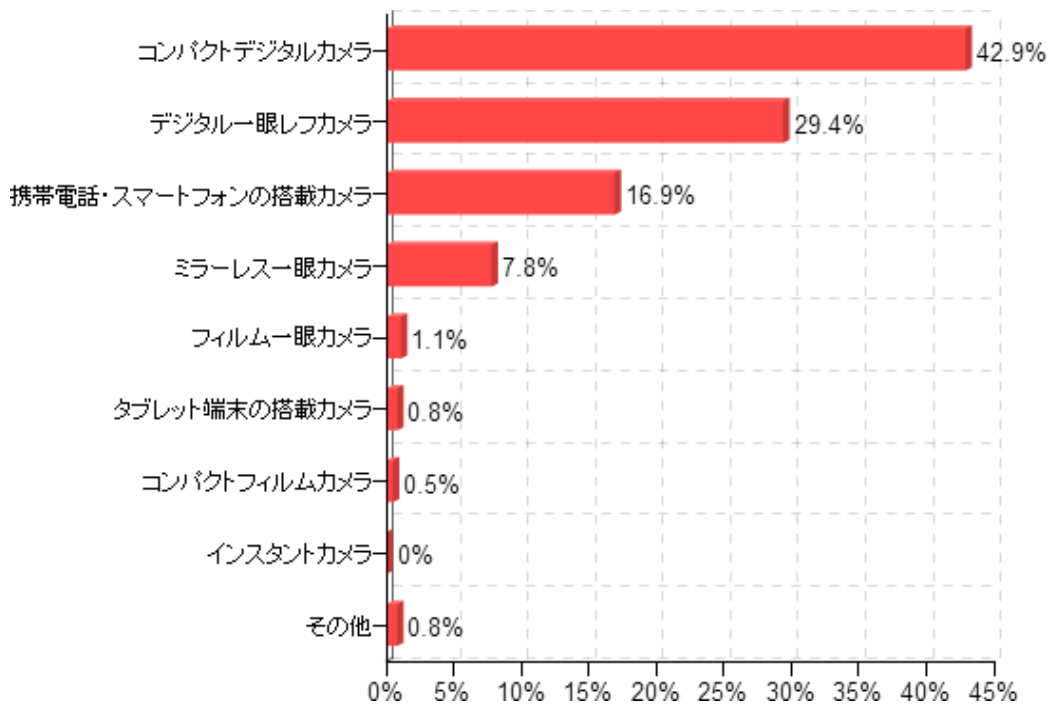
※参考資料：2012年3月実施「価格.com リサーチ第61回 最新・カメラ購入意識調査」より

【カメラの所有台数（男女別）】 <http://kakaku.com/research/report/061/#graph2-2>

主に使用するカメラ：コンパクトデジタルカメラ(42.9%)がトップも、2年前と比べると11.2ポイント減少。デジタル一眼レフ(29.4%)、携帯電話・スマートフォンの搭載カメラ(16.9%)、ミラーレス一眼(7.8%)が上昇。

【図 3-1. 写真を撮るとき、主に使用する機器(メインカメラ)】

(N=自分用のカメラを持ったことがあり、かつ現在も自分用のカメラを持っている人)



※今回の調査から新たに加えた項目：「タブレット端末の搭載カメラ」

※参考資料：2012年3月実施「価格.com リサーチ第61回 最新・カメラ購入意識調査」より

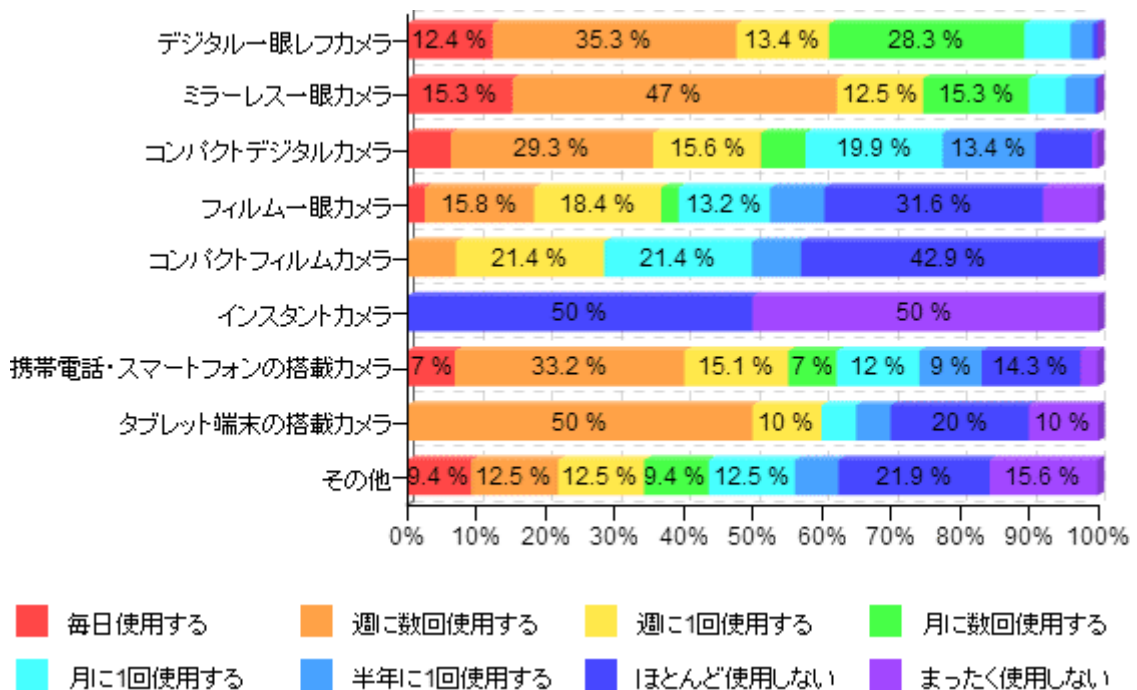
【「写真を撮るとき、主に使用する機器(メインカメラ)】 <http://kakaku.com/research/report/061/p02.html#graph4>

撮影時にメインカメラとして使っている機器の種類を聞いたところ、トップは「コンパクトデジタルカメラ」で 42.9%。次いで、「デジタル一眼レフカメラ」が 29.4%となり、「携帯電話・スマートフォンの搭載カメラ」は 16.9%で 3 位となった。最近流行の「ミラーレス一眼カメラ」は 7.8%で 4 位だった。

2 年前の調査と比較してみると、「コンパクトデジタルカメラ」は 11.2 ポイントのダウン、「デジタル一眼レフカメラ」は 3.2 ポイントのアップ、「携帯電話・スマートフォンの搭載カメラ」は 5.1 ポイントのアップ、「ミラーレス一眼カメラ」は 3.8 ポイントのアップとなっている。コンパクトデジタルカメラのメイン利用が大幅に落ちており、他のカメラに取って代わられているという様子が見て取れる。なかでも、スマートフォンなどの搭載カメラで伸び率が高いのは、スマートフォンなどの搭載カメラの性能が向上し、コンパクトデジタルカメラに匹敵するようなレベルの写真が撮れるようになったことや、SNSなどでの写真共有が進んだことが、大きな理由として考えられる。

【図 3-2. 写真を撮るとき、主に使用する機器(メインカメラ) (利用頻度別)】

(N=自分用のカメラを持ったことがあり、かつ現在も自分用のカメラを持っている人)



続いて、メインカメラ別に、どれくらいの頻度で撮影しているのかクロス集計を行った。

まず、撮影の利用頻度をもっとも高いカメラは「ミラーレス一眼カメラ」となった。こちらをメインに使っている人は、「毎日使用する」15.3%、「週に数回使用する」47.0%と、利用頻度がトップレベルとなった（タブレット端末はメインカメラとしての利用が少ない）。次に利用頻度が高かったのは、意外なことに「デジタル一眼レフカメラ」。「毎日使用する」12.4%、「週に数回使用する」35.3%と、いずれもほぼ 2 位という結果になっている。これらの比較的本格的なカメラのメインカメラとしての利用頻度が高いのは、写真撮影を趣味にしている層が多く利用していることが大きく寄与しているものと思われるが、機動性の高いコンパクトデジタルカメラやスマートフォンなどよりもメインカメラとしては利用頻度が高いという点はやや意外な気もする。

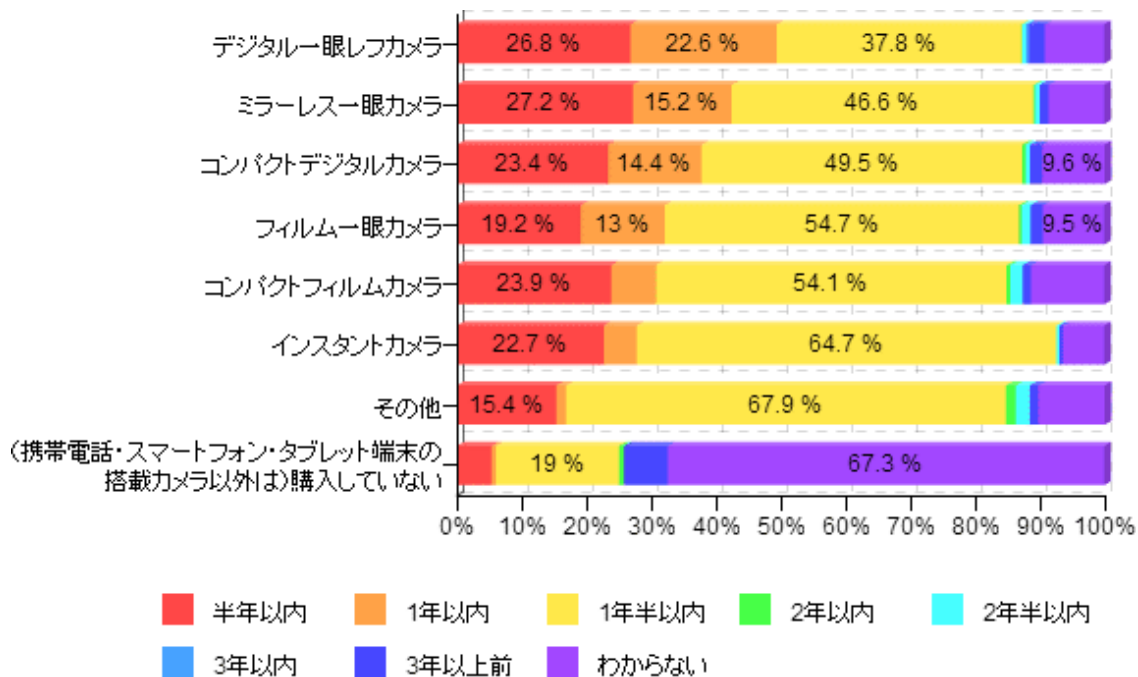
一方のコンパクトデジタルカメラは、毎日利用する人はそれほど多くないものの、週に数回が 29.3%、週に 1 回が 15.6%、月に 1 回が 19.9%と、主に週末のレジャー用途メインで利用されるケースが多いようだ。また、もっとも機動性の高い、携帯電話・スマートフォンの搭載カメラに関してもこれと同傾向にあるが、こちらについては「ほとんど利用しない」との回答も 14.3%いるなど、利用の傾向にかなりバラツキがあることがわかる。

一番最近購入したカメラと購入時期：1年以内の購入では「デジタル一眼レフカメラ」(49.4%)、直近半年以内の購入では「ミラーレス一眼カメラ」(27.2%)がトップ。

最近購入したカメラとして割合が高いのは、ここ1年以内で見ると、順番に「デジタル一眼レフカメラ」(49.4%)、「ミラーレス一眼カメラ」(42.4%)、「コンパクトデジタルカメラ」(37.8%)。さらに直近半年で見ると、1位は「ミラーレス一眼カメラ」(27.2%)で、次いで「デジタル一眼レフカメラ」(26.8%)、「コンパクトデジタルカメラ」(23.4%)となり、1位と2位が逆転している。3位の「コンパクトデジタルカメラ」は「1年～1年半以内」という回答が49.5%と比較的多めで、それ以前の割合も多く、ここ最近に買われた割合は比較的小さい。

このことから、ここ1年ほどの購買トレンドとしては、コンパクトデジタルカメラよりも、むしろデジタル一眼レフカメラやミラーレス一眼カメラが主流となってきていることがわかる。なかでも、新ジャンルのミラーレス一眼カメラは、ここ半年ほどでかなり購買される割合が高まっていると言っている。

【図 4.一番最近購入したカメラと購入時期】(N=アンケート回答者全員)



購入時の重視点：「解像度の高さ」(8.2%)、「手ぶれ防止機能」(7.7%)。価格よりも基本性能を重視する傾向

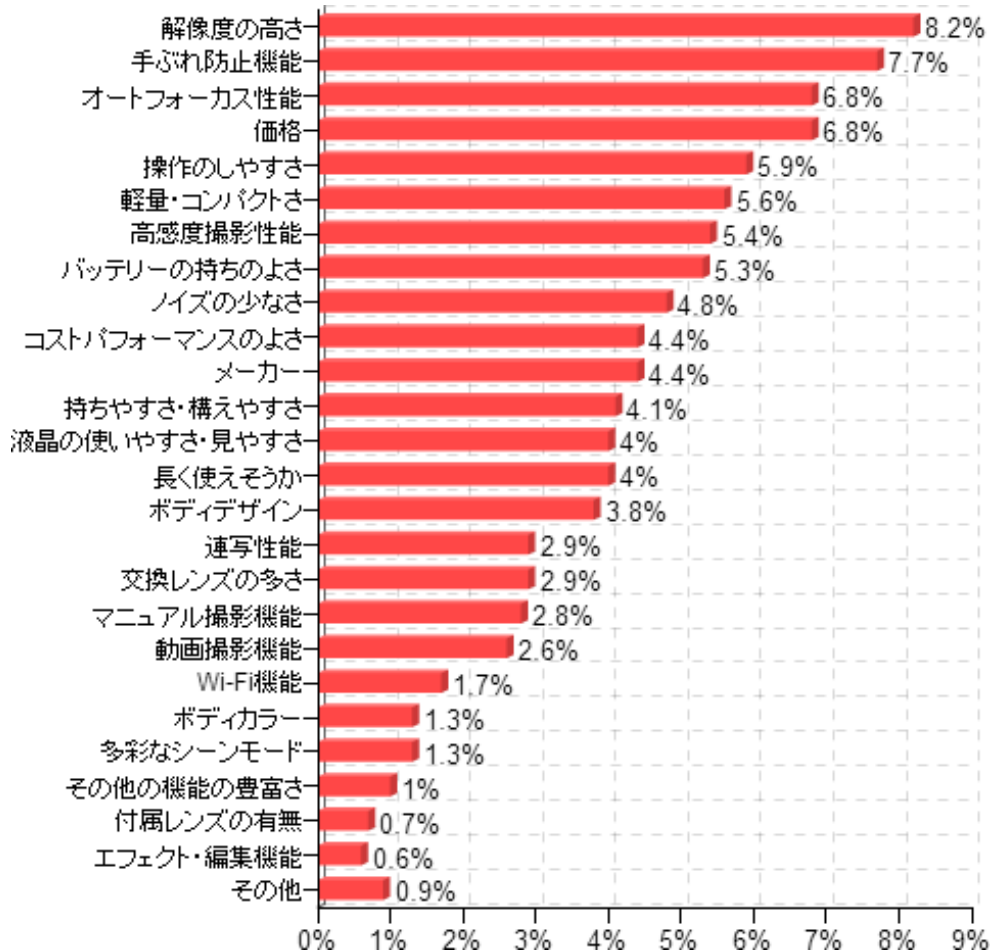
カメラ製品を購入する際に重視するポイントを回答(複数回答)が多かった順に並べると、「解像度の高さ」(8.2%)、「手ぶれ防止機能」(7.7%)、「オートフォーカス性能」(6.8%)、「価格」(6.8%)、「操作のしやすさ」(5.9%)、「軽量・コンパクトさ」(5.6%)、「高感度撮影性能」(5.4%)、「バッテリーの持ちのよさ」(5.3%)という順番になった。

以前のデジタルカメラでは、「バッテリーの持ち」が大きな問題になっており、重視するポイントとしても上位に来ていたが、ここ数年の技術進歩によって、バッテリー問題は以前よりも気にされなくなっている。むしろ、カメラの撮影性能を左右する「解像度」「手ぶれ防止」「オートフォーカス」などといった部分を重視する人が増えてきており、同じくらいのサイズでも、より本格的な性能を持ったカメラを指向するユーザーの傾向が見て取れる。「価格」についても、こうした基本スペックよりは、重視されるポイントとしては後に来ていること

から、「価格は多少高くとも、しっかりした基本性能を持ったカメラが欲しい」といった向きに、ユーザーの嗜好が変化してきていることがわかる。

【図 5.カメラ（携帯電話・スマートフォン・タブレット端末を除く）を購入する際に重視する点】

(N=アンケート回答者全員)



総評（一部抜粋）： 鎌田剛 カカクコム メディアクリエイティブ部 部長

約 2 年ぶりに、カメラの利用状況についてのリサーチを行った。カメラ市場の状況は、2 年前と比べると様変わりしており、利用方法なども大きく変化してきている。こうした中で、ユーザーがどのような機器を、どのような目的で利用しているのか詳しく調査し、その実態に迫ってみた。

まず、カメラ所有台数であるが、もっとも多かった回答は「2 台」で、2 年前の 1 台から増加している。特に男性では 3 台、4 台、5 台と所有している人も多く、もはやカメラは、1 人 1 台の時代から、1 人で複数台を所有するのが当たり前の時代に移行していることがわかった。なお、ここで言うカメラの中には、携帯電話やスマートフォンに搭載されるカメラも含まれている。

メインカメラとしての利用では、今でもコンパクトデジタルカメラがもっとも多いものの、2 年前と比べると、その割合は大きく減少しており、これに代わって、デジタル一眼レフカメラ、携帯電話・スマートフォンの搭載カメラ、ミラーレス一眼カメラなどがメインカメラとしての地位を高めてきている。特にここ 2 年では、ミラーレス一眼カメラの伸び率が高く、ミラーレス一眼カメラがかつてのコンパクトデジタルカメラの地位に取って代わりつつあることも明らかとなった。

その一方で、携帯電話・スマートフォンの搭載カメラも、コンパクトデジタルカメラの地位に取って代わるも

のとしてその存在感を増してきている。これらの携帯デバイスのカメラをメインカメラとして利用している割合は16.9%にもものぼっており、2年前に比べて5.1ポイントも伸びた。性能もこの2年でかなり上がってきており、もはやコンパクトデジカメに匹敵するほどの性能・画質を備えているものも出ている。また、SNSなどとの親和性も高いことから、日常的に利用する人が増えており、むしろこちらをメインとして利用する人も増えているという結果になった。現在はコンパクトデジタルカメラと携帯電話・スマートフォンを、場合に応じて使い分けるという人が多いが、そのうちにこの関係が逆転する可能性もなくはないだろう。

なお、最近購入したカメラの割合では、従来のコンパクトデジタルカメラから、デジタル一眼レフカメラやミラーレス一眼カメラのほうに比重が移ってきており、ここでもコンパクトデジタルカメラの苦戦が見えてくる。なかでも、新ジャンルのミラーレス一眼カメラが、ここ半年以内では購買される割合が高くなっており、デジタル一眼レフカメラの人気を上回らんとする勢いで伸びている。

このように、ここ1~2年のカメラ市場では、性能向上が著しいミラーレス一眼カメラと、主にスマートフォンの搭載カメラが、それぞれ利用シーンを大きく拡大しており、従来のデジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラの利用シーンを浸食する形で、その存在感を増してきている。特に、機動性にすぐれ、画質性能も一眼レフカメラに迫る勢いで向上しているミラーレス一眼カメラが、メインカメラとしてのデジタル一眼レフカメラの役割や、サブカメラとしてのコンパクトデジタルカメラの役割を代替していくような動きが顕著になってきており、今後の動向いかんによっては、カメラ市場のメインストリームとなっていくことも予想される。

※詳細結果、総評全文および過去のリサーチアーカイブは以下 URL をご参照ください

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【調査パネル】

調査エリア：全国 調査対象：価格.comID 登録ユーザー

調査方法：価格.com サイトでの Web アンケート調査 回答者数：4,421 人

男女比率：男 92.5%：女 7.6%

調査期間：2014年3月20日~2014年3月26日

調査実施機関：株式会社カカクコム

※四捨五入による端数処理のため、合計が100%にならないことがあります。

【価格.com サイトデータ】(2013年12月末現在)

月間利用者数 4,568 万人、月間ページビュー 10 億 3,292 万 PV、累計クチコミ件数 約 1,600 万件。

<利用者内訳> PC：2,990 万人 スマートフォン：1,510 万人 フィーチャーフォン：68 万人

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカクコム 広報室 e-mail: pr@kakaku.com

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com リサーチ」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…